



「パレスチナ連帯国際フェスティバルー10・30大阪」 実行委員会からみなさんへ 代表：趙博（チョウバク）



本日のご参集、たいへんありがとうございます。
 パレスチナ・ガザの民衆は昨 2018 年の「土地の日」（3月30日）に「グレート・リターン・マーチ」（＝帰還の大行進）を開始し、その後も毎週数千人以上の規模で現在も続けられています。

イスラエルの隔離壁に閉じ込められ、食料・飲料水・医薬品が枯渇しているガザは、世界最大の「青空監獄」と呼ばれています。

そのガザの民衆が遂に立ち上がって始めた大行進は、直ちに世界中の人々の同情と共感を呼び、パレスチナ全土で祖国復帰を求める壮大な抗議行動へと広がりました。

同時に、イスラエル当局と軍は銃口を罪もない民衆に向け、多大な犠牲が発生しました。

「パレスチナ抹殺」を企むトランプ政権とイスラエル当局は、ゴラン高原の国有化、エルサレムの首都化、「ユダヤ国家法」制定など排外的なアパルトヘイト政策を拡大しています。

また、資源と市場の更なる独占を目論むアメリカ帝国主義とグローバル資本によって、中南米の民衆も辛酸困苦を強いられています。

人々は過酷な状況から逃れるために流浪の民と化し、米国南部国境に向かって大行進を始めました。

これに対し、トランプ政権が南部国境に壁を立てて難民・移民排除を強化していることは、周知の事実です。

日本の情況は、言わずもがな言語道断です！

憲法改悪を目論む安倍政権は、米国トランプ政権とイスラエルとの軍事同盟を前提に集団自衛権を容認し、沖縄への基地集中と辺野古新基地建設を推し進めています。

さらに、天皇代替わりと「新年号」公布、G20(大阪サミット)と東京オリンピックの開催で祝祭ムードを演出、以て福島原発事故を反故にしようと躍起になっています。

その裏で、特に関西では「連帯労組・関西生コン支部」に対する空前絶後の政治弾圧が続いています。

私たちは、この現実を決して許すことはできません。

パレスチナの人々との、沖縄や福島で闘い続ける人々との、そして、多種多様な＜反差別・反戦・反貧困・反彈圧＞の闘いと、永続的で強固な連帯を作り出したい！大同小異の民衆的統一戦線を構築したい！

その一つの、かつ、強固な意志表示として、私たちは「パレスチナ国際連帯フェスティバル」を、東京実行委の呼びかけに呼応して企画いたしました。

そうして東京実は多大な困難を乗り越えてMCガザの発来日・全国公演を実現させ、大阪実はベイルート在住の重信メイさんの来日講演を実現させ、本日の盛況に至る事ができました。

これは各方面の方々の多大なご支援のおかげであり、本企画を契機に様々な出会いも新たに得ました。まことにありがとうございます。



賛同金にご協力いただいた方々の一部

（順不同・敬称略） 浅川肇、重藤英一、東大阪新聞社、新城せつこ/けしば誠一（杉並区議）、坂下やすこ（宮城県議）、円谷寛（福島県鏡石町議）、株式会社大阪産地直送センター、小西弘泰（元高槻市議）、布施由女（東京都清瀬市議）、連帯ユニオン近畿地本/関西地区生コン支部、

